

“家内安全”から安全を考える

明治大学 顧問 名誉教授 住宅部品点検研究会顧問
向殿 政男



今年もまた、新年に当たり、近くの神社にお参りに行くことにしています。毎回、私の願いは同じで、“家内安全”です。もちろん、私の家内（奥さん？）だけの安全を祈っているのではありません。家族一同が、事故や病気などにならずに、元気で過ごせますようにと、神に祈っています。しかし、神頼みの前に、まず、自分で努力をするのが前提でしょう。病気に関しては、医者に行かなくても済むように、日ごろから、食生活や運動などで日常の生活に気をつけることが重要でしょう。しかし、事故は、自分の力だけでは、避けられない場合があります。

事故には、地震や台風などの自然災害等による防災や、悪い人に狙われる犯罪被害等の防犯に関連するものがありますが、生活している環境、例えば、家屋・設備や道路等の故障や劣化によって、また、交通事故等で事故に会う可能性もあります。これらは、時によっては、神に祈るのが有効（？）なのかもしれませんが、自分の注意も重要でしょう。一方、誰でも皆、安全な住居で、安心して生活をしたと思っっているはずですが、住居の中でも、現実には多くの事故が発生しています。住居内における事故にも、誤使用などによる人間側が原因によるものと、不具合や劣化などによる施設・設備側が原因であるものがあります。しかし、現実には両者は強く関連しています。人間が誤りづらく設計するのは、施設設備側の役割でしょうし、住宅の建物や施設設備は劣化や摩耗をするのは当たり前で、それを防ぐために点検・修理をするのは人間側の役割であるからです。特に、家庭内では、自分の身は自分で守るのが原則であり、そのために住居の状態を調べたり、組み込まれている電器機器やガス製品の状態を気にしたりして、必要に応じて修理点検するのは、使用者である人間の役割のはずです。

なぜ、こんなことを気にしているのかといえ

筆者は、リビングアメニティ協会（ALIA）の住宅部品点検研究委員会に関連していて、そこでは、住宅メーカーや電器・ガス機器の企業が、国と一緒に、住宅部品の点検を声かけているのですが、実際の消費者からの反応には寂しいものがあるからです。住宅部品点検の日などを設けて、住宅部品の点検の輪を広げようとしています。消費者のところまでなかなか届かないのが悩みです。確かに、現在の住宅部品点検の活動には、消費者を積極的に巻き込んでいない面もありますので、国や企業側の努力だけでは限界があります。消費者も含めて、国や業者が協調して、安全はみんなで作るものでしょう。一方で、消費者も自分自身で住居の状況や部品・機器等を点検して、家庭内の安全に気を配ってもらいたいものです。“家内安全”の基本は、この辺から始まるのではないのでしょうか。

私はいま、次のように自分に言い聞かせています。何も考えずに、時には、何が危険かわからず、ただ単に、神に“家内安全”を祈るのは、旨くないのではないのか。“家内安全”を神に祈る前に、やるべきことがあるだろう。自分でやるべきことは自分でちゃんとやったので、後は神に祈るとするのが正しい考え方ではないのか、ということです。そして、自分の力だけでは安全は実現できないからといって、適当なところであきらめたりするのは、少なくとも安全に関係する人間にとっては、旨くないのではないのか。安全の役割分担を明確にして、前述したように安全は皆で協調して創るもの。まず、足元の安全を確保して（これが“家内安全”？）、自分の安全の役割を自覚して、皆で協力して顧客や社会の安全を守る、そういう精神が本当の安全の実現につながるのではないのか、ということです。

今年は、新たな気持ちで神社に“家内安全”を祈ろうと思っています。